

# 府民の森ほしだ園地探鳥会 (毎月第4土曜日両園地通算第 278 回)

令和6(2024)年5月25日(土)9:30～14:30頃 日本野鳥の会大阪支部  
友田武・神戸徹・近藤輝男・沖光二・新名泰博・平軍二 (090-6901-1425)

## I 交野の鳥シリーズ(127)ハヤブサ

今月の鳥は、5/20 河村壽氏が交野バードに公開されたほしだ園地のシンボル鳥「ハヤブサ」にしました。

ハヤブサが 2020 年より営巣しなくなったため、2022 年に「交野野鳥の会」名で大阪府中部農と緑の総合事務所に、ハヤブサが営巣している岩棚付近の雑木を伐採し更地とすることを申し入れ、22 年秋に伐採してもらいました。その後 2023 年の早春、そして今 2024 年早春と、営巣準備スタートと思われる行動が見られたものの、結局繁殖行動に入らないまま終わっていた。



岩棚に雌雄(20240520)

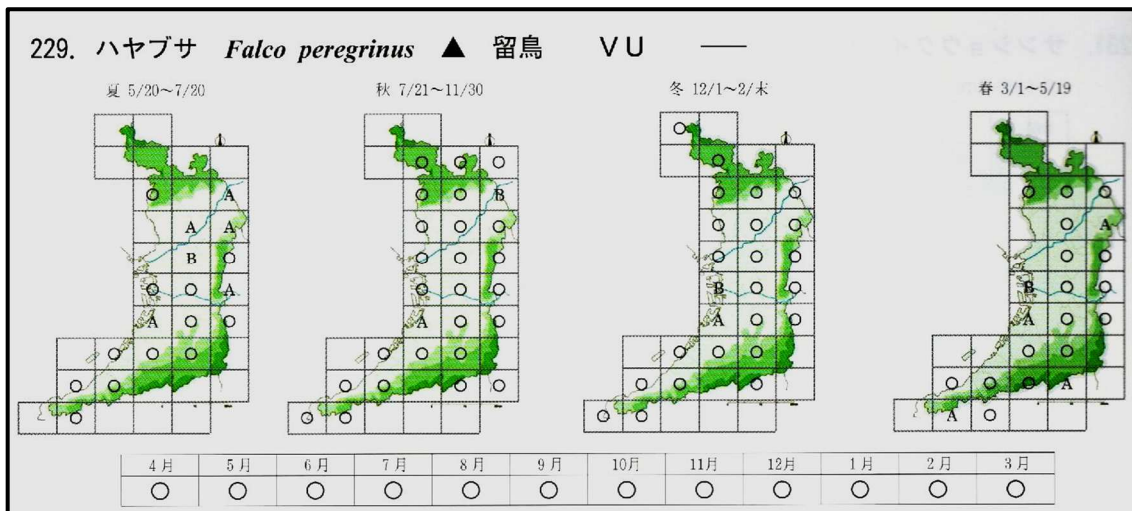


岩棚上に雛4羽(20190519)

2019 年までは左写真のように、5 月にお立ち台と称している岩棚周辺に、その年に生まれた雛の姿が見られたが、残念ながらここ5年は「今は昔」状態が続いている。

この間ハヤブサの営巣は確認されていないものの、岩棚及び500m ほど離れた送電鉄塔周辺にほぼ定住していて、ハヤブサとしてはこの岩棚を自分の営巣地として守っていると思われるので、「来年こそは」と期待したい。

## I-①大阪府鳥類目録 2016 ハヤブサ(日本野鳥の会大阪支部)



大阪府鳥類目録 2016 では、交野市ほしだ園地を含めた淀川流域、泉大津市などに繁殖地が記録されている。



## I-②希少鳥類の生息調査報告 2019 年度(ハヤブサ) 大阪希少鳥研究グループ

大阪支部むくどり通信 2024 年 5 月号は橋本正弘さん、小海途銀次郎さん追悼号となっています。その小海途さんが大阪希少鳥類研究グループを結成され、毎年クマタカ・オオタカ・ハヤブサなど猛禽類の調査を実施し、「希少鳥類の生息調査報告」として集約されていました。その中から、ハヤブサ生息(繁殖)状況を抜粋した。

ハヤブサの生息(繁殖)状況								
◎2・・・繁殖成功2雛、 ○・・・生息、 ▲卵・・・繁殖失敗(卵在巢) ?・・・不明								
年番	泉大津	和泉市	泉南市	交野星田	八尾環	PL	堺市庁	茨木市
2004(H16)	◎2雛	○		○				
2005(H17)	▲4卵 ♀交代	▲?		▲				
2006(H18)	◎4雛	○		▲				
2007(H19)	◎2雛	○	◎?	▲2雛	巣箱設置			
2008(H20)	◎4雛	▲卵	○	◎3雛				
2009-1	▲4卵 ♀交尾	▲卵	?	◎3雛	◎1雛			
-2	◎2雛 ♀交代	—	—	—	—			
2010(H22)	◎3雛	▲卵	?	◎3雛	◎3雛			
2011(H23)	◎4雛	▲卵	▲卵	◎3雛	◎3雛			
2012(H24)	◎4雛	?	?	◎1雛	◎1雛			
2013(H25)	▲4卵 孵化せず	▲卵	▲卵	◎2雛	◎3雛		○	
2014(H26)	◎4雛 -1雛	?姿無し	?姿無し	◎2雛	▲卵	◎1雛	◎1雛	
2015(H27)	◎4雛 -1雛	?姿無し	◎? 4/12抱卵	○非繁殖	◎3雛	○非繁殖	▲1/25 交尾	○ 本年から繁殖
2016(H28)	▲4卵 孵化せず ♂交代	?姿無し	?姿無し	○非繁殖	◎3雛	○非繁殖	▲交尾	◎2雛 2羽幼鳥確認
2017(H29)	◎2雛 4卵中、2 卵孵化	◎4雛	▲卵? 5/14抱卵	◎1雛 6/2まで 2雛有り	◎4雛 5/28 巣立 ち	?	○ 時々出現 する	○非繁殖
2018(H30)	◎2	?	?	◎2 4雛生まれ 2雛落鳥	◎2			
2019(H31) ～ (R01)	◎3 4雛巣立、 1雛落鳥	? 親鳥の姿 なし	? 調査せず	◎2 4雛生まれ 2雛落鳥 雌親が不明	◎2 6/12・雛2 羽で飛び まわる	? 調査せず	?	

大阪府内のハヤブサ営巣地の経年状況が示されている。ほしだ園地は 2019 年まで安定した営巣地であったが、上述の通り 2020 年以降、繁殖していないことが残念である。

## Ⅱ 先月2024/4/27くろんど園地探鳥会結果

3月ほしだ園地探鳥会は雨天中止としたので、4月くろんど園地探鳥会結果を報告する。

探鳥会コースのスタートから終了まで春の渡り鳥・留鳥のさえずりが切れ目なし、しかもオオルリ・キビタキ・センダイムシクイなどのシャッターチャンスが何回もあり、春の鳥を満喫することができた。

ウグイスなどの在来種と繁殖地が競合し駆逐するおそれがあるとして、特定外来生物に指定されているソウシチョウは20羽と多かったが、ウグイスが26羽とソウシチョウを上回ったので、ほっとした。



オオルリ(渡辺信義氏)



キビタキ(渡辺信義氏)



ウグイス(渡辺信義氏)



シジュウカラ(渡辺信義氏)



キレンジャク(沖光二氏)

2000年1月にスタートした両園地探鳥会は25年目、4月探鳥会は、「春の渡り鳥(オオルリ・キビタキ・センダイムシクイ)や、留鳥(ウグイス・シジュウカラ・ソウシチョウ)の歌声をこれほど聞いたことがなかった」といえるほど、小鳥たちの歌を良く聞くことができ、姿も良く見ることができた。鳥合わせ場所とした河内磐船駅前のクスノキでは、今月の探鳥会資料に入れたキレンジャクも出て、大満足で終えた。

## Ⅲ 次回探鳥会 2024/6/22 くろんど園地 9:30 私市駅前

大阪支部HPのホームズからお申し込みをお願いします

